

保護者様



令和6年度 前期自己評価について(お知らせ)



標記につきまして、国が定めております幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、認定こども園は教育・保育の質の向上を図るため、保育教諭等の自己評価を踏まえ、教育・保育の計画の展開や保育の内容について前期分の評価を終了致しましたので、お知らせいたします。

【評価の目的】

- ・評価をすることで保育教諭等の専門性の向上と共にこども園全体の質の向上を図る。
- ・保育教諭等一人ひとりが、自己の教育・保育を振り返り、基盤となる子どもの理解を深めることで、日々の教育・保育実践の意味を考え、次のより良い実践へと繋げていく。



【評価の方法】

- ① 認定こども園教育・保育要領に基づく保育者のための「自己評価チェックリスト」を使い、第1章から第7章について各々自己評価をし、平均値を出し全体傾向をグラフにしました。
- ② 「保育を振り返る会」を0・1・2歳児各クラス、および幼児クラス(3・4・5歳児)毎に開き、保育教諭等および園長、主幹保育教諭が参加をした。  
自分たちが心を動かされた多くの子どもの成長、そして半年間実践してきた教育また保育を振り返り、それについて語り、さらに今後の教育・保育への思いを語り合う会とした。
- ③ 「人権擁護のためのセルフチェックリスト」の活用  
園内研修における振り返りの実施。



【今期の評価を通して見えたこと】

- ① チェックリストの結果を令和5年度後期と比較すると、第7章子育て支援が前回評価より6%下回り、他項目ではほぼ同率、もしくはわずかながら上回った結果となった。第7章子育て支援においては、新年度を迎え、新入児の受け入れ、新クラスでの担任のスタートという環境下で、日々の保育を行う中、十分な子育て支援の遂行が成されたかどうかという視点から、評価が伸びなかったという事が推察される。特に前半は信頼関係が構築され家庭との連携が進む過渡期であったこともこのような評価に繋がった。また、このことは保育教諭等がこども園において、子育て支援を遂行することの重要性を十分認識しているとも言える。今後も家庭との協力、連携のもと、より良い子育て支援につながるよう、取り組んで行く。チーム保育を推進しより丁寧で細やかな対応を行っていく事は、保育教諭等、一人ひとりの保育力向上に繋がると考える。
- ② 「保育を振り返る会」ではよりチーム保育の向上に繋がるよう、未満児は各クラスで、幼児は3クラス合同で行った。半年間の保育を振り返る中、こども一人ひとりと向き合い、目標やねらいについての検討を行ったり、またその時感じた思いや感動、捉えたその成長の姿を伝え合うことが出来た。その中で、自身がどう子ども達とかかわるか悩んだ事を共感し、それぞれで実践してきた保育を認め合い、共有し、自己の成長も実感する結果となっている。伝え合う中、保護者との信頼関係を構築できた事、そして子どもから向けられる信頼、愛情を思い、感謝や喜びを感じ涙する場面や、新たな責務に身を奮い立たせる保育教諭の姿もあった。また、自身の事のみではなく、その実践が他の保育者に支えられているという思いに繋がり、チームメンバーへの感謝と共に、共通認識することができた。今後のより良い保育の実践に繋がるものと考え。
- ③ 「人権擁護のためのセルフチェックリスト」は各々が、保育者としての、行動、子どもとの関わりを振り返るためであり、「人権擁護」と言う視点から、自己の関わりを見つめ直し「子どもを尊重する保育」への理解と認識を深めることが出来ることである。今回は「虐待防止」に関する園内研修を実施し、その中で必要な保護者支援と対応を学ぶと共に、チェックリストを使い自らも振り返り、今後も指針として活用する事とする。また、「虐待等の防止および発生時に関するマニュアル」の再確認を行う。

今後も保育教諭・保育士は一人ひとりが自己研鑽に努め、外部研修や園内研修での学びを深めることでより専門性を高め、実践する中で課題を明確にし、共有する事で園全体の質の向上を図る。

これからも保護者の方、一人ひとりのお子さんに寄り添い、保育者として深い愛情を持って、子ども達に向き合うと共に、自己の保育を振り返ることを怠らず、コミュニケーション力を高め、保育力、チーム力の向上に繋げていきたいと考える。



チェックリスト集計

令和6年度 前期

自己評価対象	チェック項目	項目数	「はい」の数	割合
第1章 総則		67	59	88%
	1 教育及び保育の基本と目標	13	12	92%
	2 特に配慮すべき事項	54	47	87%
	(1)教育及び保育の配慮	14	13	93%
	(2)健康支援	20	18	90%
	(3)食育	11	10	91%
	(4)特別支援教育・障害児保育	9	6	67%
第2章 子どもの発達		14	14	100%
第3章 「ねらい」及び「内容」		110	97	88%
	1 保育内容「健康」	22	21	95%
	2 保育内容「人間関係」	22	20	91%
	3 保育内容「環境」	22	17	77%
	4 保育内容「言葉」	22	21	95%
	5 保育内容「表現」	22	18	82%
第4章 低年齢児の保育実施上の配慮事項		40	38	95%
	1 乳児期の保育に関する配慮事項	28	26	93%
	2 満1歳以上～満3歳未満児の保育に関する配慮事項	12	12	100%
第5章 指導計画作成に当たって配慮すべき事項		30	27	90%
第6章 研修と自己評価		15	13	87%
第7章 子育て支援		17	14	82%
	合計	293	262	89%

